

「高齢福祉部会の活動について」

高齢福祉部会 柴田 正義

令和7年度の活動は、市役所会議室における講義形式の研修会と高齢者施設の現地視察研修でした。

6月23日に「ハートフルケアセミナー」を開催し、午前中は介護支援専門員の末岡紅美氏による「知っておきたい福祉用語について」をテーマに講義をいただき、午後は介護予防指導員の倉本武寿氏による「高齢者のための介護予防入門」でストレッチ運動を行い介護予防の基本を学びました。一日を通して二名の講師から学ぶことができ大変有意義な研修となりました。

10月には高齢者施設の訪問をし、設備やサービス内容など、民生・児童委員として施設の空気感を肌で感じることができました。



「自立支援施設で障害福祉について学ぶ」

障害福祉部会 都築 光男

7月の3日間、市内の「社会福祉法人ぬくもり福祉会」の4事業所（ぬくもりの郷・ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス）を5～6名の12グループに分かれて訪問しました。概要説明と利用者との交流で、障害福祉について見識を広めました。

私の訪問した「ぬくもりワークス」の概要説明では仕事をしたい利用者が自立できるように、本人の希望を大切にしていること、心身の健康のため、サークル活動やスポーツなど余暇活動の時間も十分とていてと教えていただきました。その後の交流では自動車部品の作業に参加しました。利用者さんが自分で箱や道具を準備し、助け合いながら作業が始まったことに驚きました。個々の能力を生かした支援が安心と意欲を生んでいると感じました。



「児童福祉部会の活動について」

児童福祉部会 鈴木 桂治

児童福祉部会は、主任児童委員部会と合同で研修会を行いました。

6月は「安城市の子ども計画について」こども課・保育課・学校教育課の職員の方から、講義を受けました。

9月は「支援活かすアンガーマネジメントについて」認定講師の稲垣真紀子氏をお招きして研修会を行いました。特に令和7年度から桜井中・東山中で「コミュニティ・スクール」が発足しました。そして順次市内小中学校に「コミュニティ・スクール」が拡大されていきます。民生・児童委員の間でもその位置づけを理解している委員は多くないと思っていたのでタイムリーな研修だと感じました。



「主任児童委員部会の活動について」

主任児童委員部会 鈴木 三喜男

主任児童委員部会では、主に小学校や公民館、福祉センターにおいてペットボトルなどを使用するおもちゃ作りを通して親子ふれあいの場を提供しています。実際におもちゃを作っている時だけでなく、家に帰った後の一家団らんの折、親子での会話が弾んで絆を深める一助になればという思いでこの親子ふれあい活動を継続しています。

また、近年深刻な社会問題になっている児童虐待に主任児童委員としてどのように対応すべきが学ぶための研修会も毎年開催しています。

今後の課題としては、新たな活動の在り方を見出していくことが必要であると感じています。そして、民生・児童委員の皆様や関係機関と密接に連携して活動していきたいと思います。



「遂行」 広報部会 杉浦 美紀代

民生・児童委員の活動にご理解とご協力が得られますように、読みやすくわかりやすい紙面をめざして、広報部会は「民児協あんじょう」を年1回発行してきました。

特に市内の全委員が5つの部会に分かれて活動する専門部会の活動は、毎号掲載させていただきました。限られた紙面で私たちの活動を多くの方に知ってもらうのはなかなか難しいことを改めて痛感しました。原稿を寄せてくださった皆様、ご協力ありがとうございました。



第42回 安城市福祉まつり

令和7年10月5日（日）に町内会と協働で行われました安城市福祉まつりチャリティーバザーの収益金は、**207,350円**でした。沢山の方にお越しいただき盛大に開催できました。収益については、福祉事業に役立てられます。ありがとうございました。

【編集後記】

今回第22号発行にあたりご協力いただいた方に紙面を使用して、お礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。 広報部会一同



民児協

あんじょう

第22号

〈発行・編集〉安城市民生委員・児童委員協議会 広報部会



赤い羽根共同募金街頭活動



第42回 安城市福祉まつり チャリティーバザー

私はますます困難になっています。この度の一斉改選（任期3年）では、民生・児童委員の選任・推薦について、各町内会及び地域のみなさまのご尽力に深く感謝申し上げます。

私たちは、安城市福祉部、安城市社協や地域包括支援センターなど多方面からの支援と協力で、以前よりも安心して民生・児童委員活動ができます。また、6年前発足の民生委員協力員会は、私たちの力量不足を補っていただいています。町内会の見守り活動やサロン活動などにより、地域福祉が着実に向上していると実感できます。

孤立や貧困、心身の障害や育児・介護のストレスなどの問題は、気が付きにくく重層化しています。私たち民生・児童委員は、すべての人々と協力して健全な地域社会づくりに努めていきたいと思ひます。



定年の延長や再雇用など、60代の多くの方が就労している状況から、民生・児童委員の成り手確保はますます困難になっています。この度の一斉改選（任期3年）では、民生・児童委員の選任・推薦について、各町内会及び地域のみなさまのご尽力に深く感謝申し上げます。

安城市民生委員・児童委員協議会
会長 杉浦 正之

「民生・児童委員活動を振り返って」東山地区 畔柳 圭子

私が民生・児童委員になったきっかけは、前任者が意識不明の病気となり、任期途中での町内会推薦によるものでした。就任当初は、自分の親ほどの年代の方ばかりで心細かったです。与えられた立場を全う出来るかとても心配だった事を今も思い出します。

当時の活動としては、就学援助の所見を書いたり、保育園の就労証明があったりして、児童委員としての仕事もありましたが、今ではひとり暮らし高齢者の見守り活動が主になり、包括の方との連携が必須になってきました。民生・児童委員を退任しますが、これからも地域の福祉活動に少しでも協力したいと思います。



「退任にあたって」中部地区 石隈 厚司

民生・児童委員を引き受けて12年になりました。引き受け当初は、住んでいる地域住民の方々との交流も少なく、私が引き受けて良いものかと悩みました。委員となって町内福祉委員会のメンバーとして活動することで町内会の人達との交流が増え、皆さんの協力のもと活動することが出来ました。

引き受けて良かったことは、今まで縁が少なかった高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉の世界を勉強する事が出来たこと、委員活動の中で広範囲の方々と交流が図れたことです。有意義な12年間を過ごすことが出来て感謝です。ありがとうございました。



「退任委員として」安祥地区 岡野 恒一

民生・児童委員を引き受けて早いもので12年が過ぎました。思い起こすとコロナ感染症の流行を挟んでの活動でした。普段、体験できない高齢者施設や障害者施設の見学、学校行事（運動会、学芸会、校外学習、卒業式）の参加が懐かしく思い出されます。

年末の赤い羽根共同募金で街頭に立ったこと、高齢者へのおむつ券の配布、同年代のひとり暮らし高齢者の見守り活動が心に残ります。児童にかかわる仕事が少なくなってさびしく思っています。

これ迄、ご協力を頂いた関係者にこの場を借りて感謝申し上げます。



「振り返って」西部地区 岡田 春治

民生・児童委員の委嘱を受けて、日常の見守り活動への対応、福祉全般の研修を色々を受けた。思い起こせば、民生・児童委員1年目に東日本大震災が起こった。津波が押し寄せる映像をテレビで見た時、これは大変な事が起こったと感じた。それから、大きな地震が立て続けに日本列島を襲った。他に、毎年どこかで集中豪雨による水害の被害を受けている。またコロナという厄介なものが出てきて日常生活の自粛と民生・児童委員活動を細々と実践した。

なんとか無事終える事が出来た事を関係者の皆様に感謝します。



「学びと思い出」作野地区 北野 眞知子

4期12年の活動の中、学習会や視察研修等で、思いやりと沢山の方の支えがある事を学びました。また、相手の立場に立った対応と、支援の難しさも感じました。

毎月のサロンの内容は、皆さんと様々に工夫。協力と励ましのお陰で楽しく取り組むことが出来ました。とても良い思い出です。昨年の11月より、新しくスマイルカフェも始まりました。

この経験と感謝の気持ちを忘れずに、これからも、元気に挨拶を心掛けていきたいと思っています。ありがとうございました。



「12年間を振り返って」中央地区 増森 秀夫

12年前、民生・児童委員になった時、当時の町内会長が福祉安全推進協議会を立ち上げたのと同じ時期でした。民生・児童委員は要援護支援部会で他のメンバーと共に活動することになり、ひとり暮らしの見守り支援や、イベント開催時のお誘い活動を事業推進協議会と連携して活動することが出来ました。中でもコミュニティセンターで始めた「くつろぎカフェ」は今ではスタッフを含め、毎月50名前後の参加者で賑わっています。

カフェのスタッフの皆さんと部会のメンバーに感謝します。ありがとうございました。



「地域との連携と学び」明祥地区 藤村 祥子

5期15年の任期を無事終了することが出来ました。在任中は地域の皆様にはひとかたならぬご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

活動の中で認知症高齢者の迷子に遭遇した際、地域の方々と連携し無事に家族の元へお繋ぎできた経験は地域で見守り支え合うことの大切さを改めて教えてくれました。

今後は一住民として地域の一員として皆様と共にこの地域を見守っていきたいと思います。新任民生・児童委員にも引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



「福祉の輪に参加でき感謝」桜井地区 天野 静彦

先輩に勧められ委員になった私ですが良き仲間、暖かく見守って頂いた皆様のおかげで12年間、無事終えることが出来ました。

見守り訪問で「来月も会えること楽しみにしているよ」と言われた事。福祉委員会の方から、前年より1つでも行事を増やしたいと言われた事。桜井地区福祉まつりのバザーを委員で団結し、成果を出せた事。それぞれの思い出に感激しました。

これも、ひとえに福祉の輪の一員として関係機関の皆様方のご指導、ご鞭撻の賜物でした。

皆様方に感謝です。ありがとうございました。



民生・児童委員の体験

ある日の出来事です。

所用があり自転車で近くの農道を走っていた時、前方をかなりの高齢男性が小さいカートを引き、時々立ち止まりながら歩いているのを見かけました。

私の担当地域ではないのですが、何故か気になり声を掛けるかどうか迷いました。周りに人影も無いし、お店があるわけでもないし、単なる散歩かなとも思いましたが、民生・児童委員の研修会で「認知症のひとり歩きでの声掛け」のビデオを観たのを思い出して、自転車を降りて勇気を出して声を掛けました。

「こんにちは。どちらからお出かけですか？」

すると「もう少し先に行くと家だから」との返事。少し安心しましたが、しばらく一緒に歩きながら「私は民生委員なので、気になりお声掛けをさせてもらいました」と正直に話しました。

するとニコリと笑顔で「それはありがとう」と返事をして頂きました。きっと散歩だったのでしょ。やがて民家が数件見えてきたところで別れましたが、無事に帰られたと思います。なかなか声掛けも難しいですね。

